

Wカップにおいて今と過去とではどのようなゴールが増えたか

若松 宏之 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 松田 保

キーワード：2010 南アフリカ大会 2006 ドイツ大会 ゴール パス 戦術

1. 緒言

近年、サッカーの戦術としてディフェンスの組織化が急激に進み、まず攻撃よりも守備を考える国が多くなってきている。FIFA ワールドカップ大会においてゴール数を調べてみると2002 年日韓大会では 161 ゴール、2006 年ドイツ大会では 147 ゴール、2010 年南アフリカ大会では 145 ゴールと年々ゴール数が減少している。1-0 の試合も増え2006 年ドイツ大会では 64 試合中 13 試合、2010 年南アフリカ大会では 64 試合中 17 試合と 1 点を取れば勝てる試合を作り出している。そのためディフェンスが強化され、ボール保持者に対して一人ではなく、全員でボールをとりに行くので、得点を取ることが難しくなり、強豪国が勝てないと言われる大きな原因とも考えられる。

そこで、本研究では近年ディフェンスが重点的に置かれている中、どこの位置からの得点が多く生まれたのか。得点生まれやすいエリアを支配すれば、試合を優位に進め、また相手にはそのエリアを進入させにくくし、自分達の試合を有利に進め、なおかつ勝率を上げるため本研究を行う。

2. 方法

2006 年ドイツ大会と 2010 年南アフリカ大会で記録された全ゴール数を抽出し、得点位置を検証、比較する。また、パターン 1 ではタッチ数。パターン 2 ではゴール位置について。パターン 3 ではラストパスの位置について。パターン 4 ではシュートが打たれた位置について検証する。

3. 結果及び考察

2006 年ドイツ大会と 2010 年南アフリカ大会を比較した結果、パターン 1 では、どちらの大会もダイレクトシュートが他のシュートに比べてはるかに多い結果となった。これは相手よりも先にボールに触れられるため多いと考えられる。パターン 2 ではどちらの大会もゴールエリア、ペナルティエリア付近のゴールが多い。これはこぼれ球や近いところでのシュートなどキーパーのタイミングをずらすことが大きいと考えられる。このため、パターン 1 でダイレクトシュートがずば抜けて多かったのもこ

ぼれ球を押し込めるため近い位置が多いと考える。パターン 3 では 2006 年ドイツ大会では早い段階でクロスボールやカウンターなどスピーディーでシンプルな攻撃で得点を奪っていたので、サイドからのパスが多かった。2010 年南アフリカ大会では中央からパスが多かった。2006 年ドイツ大会ではカウンターサッカー、全員守備、全員攻撃、ハードワークが当たり前でボールを保持してから 10 秒以内の得点は 32%、ゴールに至るパスも 3 本以内での得点は 51%となっている。2010 年南アフリカ大会ではボールを保持してから 10 秒以内の得点は 30%、ゴールに至るパスも 3 本以内での得点は 45%となっている。これは、攻撃がまずくなったのではなく、前回大会の反省を受けてカウンターに対する守備を徹底し、カウンターが封じられたので、相手の守備が整った状態からでもパスサッカーで相手を翻弄し、中央からのラストパスが増えたと考えられる。パターン 4 では 2010 年南アフリカ大会では 1880 本中ペナルティエリア内 876 本、ペナルティエリア外 1002 本であった。2006 年ドイツ大会では 1810 本中ペナルティエリア内 771 本、ペナルティエリア外 1039 本とそこまで変わりはない。

4. 結論

本研究の結果、得点位置やタッチ数などサッカーの本質に変化は見られなかった。だが、得点を取るまでの過程や得点を与えないための守備に変化が見られた。今後もサッカーの本質は変わらないがスタイルが変化していくだろう。

参考文献

- 1) Number PLUS イビチャ・オシム P8 から P9 平成 22 年 11 月 1 日 (株) 文藝春秋発行
- 2) FIFA オフィシャル公式サイト <http://www.fifa.com/>
- 3) 2010 FIFA ワールドカップ南アフリカ JFA テクニカルスタディ 発行所：財団法人日本サッカー協会

